

平成30年度 旧八幡浜管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

講演内容

- ・演題 「学校の生徒指導をエンパワメントする ―学級経営の充実・保護者対応の視点から―
- ・講師 愛媛大学教授 白松 賢 氏
※エンパワメント…個人や集団が本来持っている潜在能力を引き出し、湧き出させること。

1 生徒指導の背景

現在の児童・生徒に対する生徒指導はこれまでの経験では対応できない。教師がある程度丁寧な配慮を行っていても保護者からのクレームは発生する。

ギャップ

要因： 保護者の求める配慮 ⇔ 学校の考える配慮

※ インターネット等の発達により、教育に関する様々な情報を持ち合わせている。

2 マニュアルの意味

- (1) 不安を感じる時の安定剤
- (2) 学校における人間関係の一つの方向性

3 苦情、クレームについて

全ての職域の中で、教員の「苦情」に対する捉え方で、「配慮不足」が最も少ない。「勘違い」、「いちゃもん」、「クレマー」と捉える率が高い(図1)。「変な保護者が増えた」という考えが根底にある。しかし、この問題の根本には社会の多様化、そして、それを認めるという流れ、ネットワークの変化がある。時代と共に「マナー」自体も変化してきており、一概に保護者の規範意識が低いとは言えない。

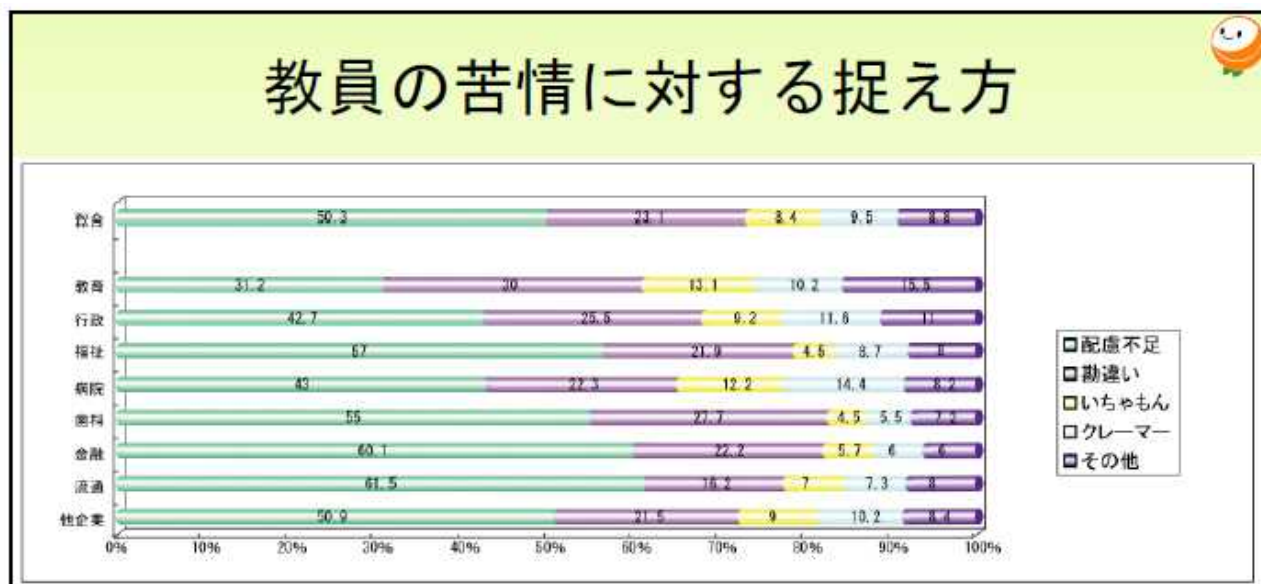
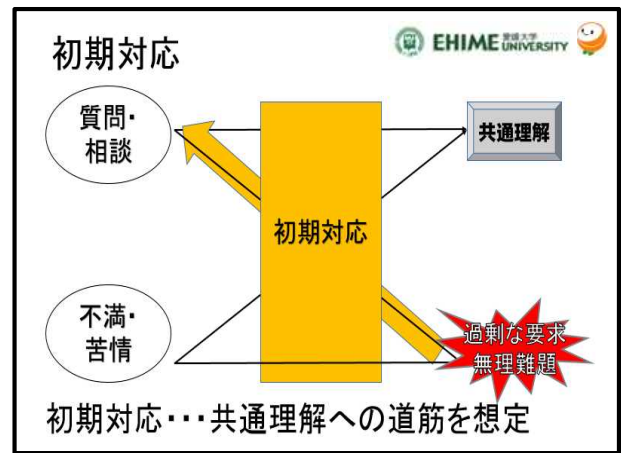


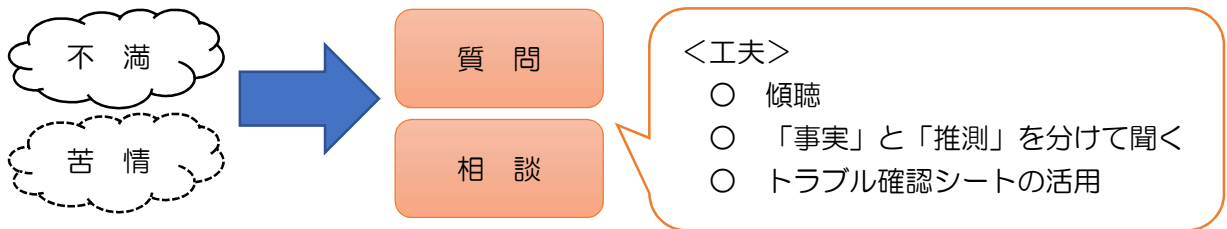
図1 教員の苦情に対する捉え方

4 初期対応・・・共通理解への道筋を想定する。
 <問題>

問題行動に対する指導（問題行動側）のみ記録化することが多く、被害を受けた側の情報を記録化していないことが多い。また、記録化していても、時系列での記録になっていないことや、「一時的な」聞き取りで終わっていることもある。



<目指す教師像>



年日	
メモ 子どもからの要望	いつ、どこで、だれが何を、どのように
メモ 子どもからの訴え	いつ、どこで、誰が何を、どのようにどうして欲しいか？
メモ 目撃	いつ、どこで、だれが何を、どのように目撃者は、他に誰か

図2 メモの工夫

トラブル確認シート	①年日時	記入者
③【トラブルの具体的内容】 いつ、どこで、誰が、誰に、なにを、どのように？ 要望あるいは対応の方法 関係する児童生徒の認識が一致している点、一致していない点	②トラブルの発見：氏名 発見方法（目撃、伝聞、訴え、相談、その他（ ））	
	④目撃した児童生徒教員氏名	
⑤【事態の起こっていた場所】 図（関係する児童生徒の場所等を図示）		

図3 トラブル確認シート

5 「無理難題」と「要求」

要求 （例）学校で調査して欲しい。相手に謝罪して欲しい。

無理難題 （例）担任を代えろ。修学旅行で、夜はこちらが手配したホテルに泊めろ。



いくつかのケースの想定を…

- (1) 質問・相談型・・・・・・・・・・雑談型／早期解決必要型／長期相談型
- (2) 苦情・不満型・・・・・・・・・・話し合い型／要求型
- (3) 学校による解決が困難な場合・・・警察との連携：脅迫、恐喝、暴行等

医療機関との連携

児童相談所との連携

※ 近年モンスターگرانマ・パの事例増加

解決につながる仮説とチェックポイント

- 要望や苦情の主旨、背景は何か？
- 子ども自身が望んでいる対応は？
- 子どもにとって成長できる対応とは？
- 学校ができることと、できないこととは？
- 事実の確認から見えた学校の配慮・対応に必要なことは？
- その配慮・対応が他の子どもや保護者に与える影響は？

解決不能も想定しておく

- 粘着質・執着心 … しつこさ、長期間にわたる頻繁な訪問、電話・メールなど
業務妨害を視野
- 要求の肥大化 … 一つの要求が通れば次の要求へ
脅迫罪も視野
- 名誉棄損型 … ビラ配り、ネットでの誹謗中傷
- 強迫的巻き込み型 … 文部科学省・教育委員会へ
- 心理的問題 … 医療の支援が必要なケース
児童相談所への通告：保護者の養育上の課題

6 学級経営について

◎ そもそも学級経営に課題はないか？

学習規律・生活規律

- 教師の言うことを聞くか・聞かないか？

危険

21世紀型の学級経営へ

- 「学習課題」「学級の公的生活の保障」を達成する上で、必要な条件整備

力ではなく、指導力で対応

- 最終的に疲れ果てる、同じ事をしていても複数人いれば、最初と最後の生徒では指導が変わる。

学級で育む人間関係

- 「仲良し」「友達」ではない
 - 課題が与えられたら、誰とでも協働して課題解決・課題達成することができる関係
 - 好きな者同士のグルーピングではなく、与えられた関係で解決する力を育む。

7 学級経営と生徒指導の連携

学級経営 … 学習活動、学校生活の基盤

<中央審議会答申より>

小・中・高等学校を通じた学級・ホームルーム経営の充実を図り、子どもの学習活動や学校生活の基盤としての学級という場を豊かなものにしていくことが重要である。

<学習指導要領より>

特別活動 指導計画の作成と取扱い

学級活動における児童の自発的、自治的な活動

- 個々の児童についての理解、教師と児童、児童相互の信頼関係を育む ⇒ **学級経営の充実**

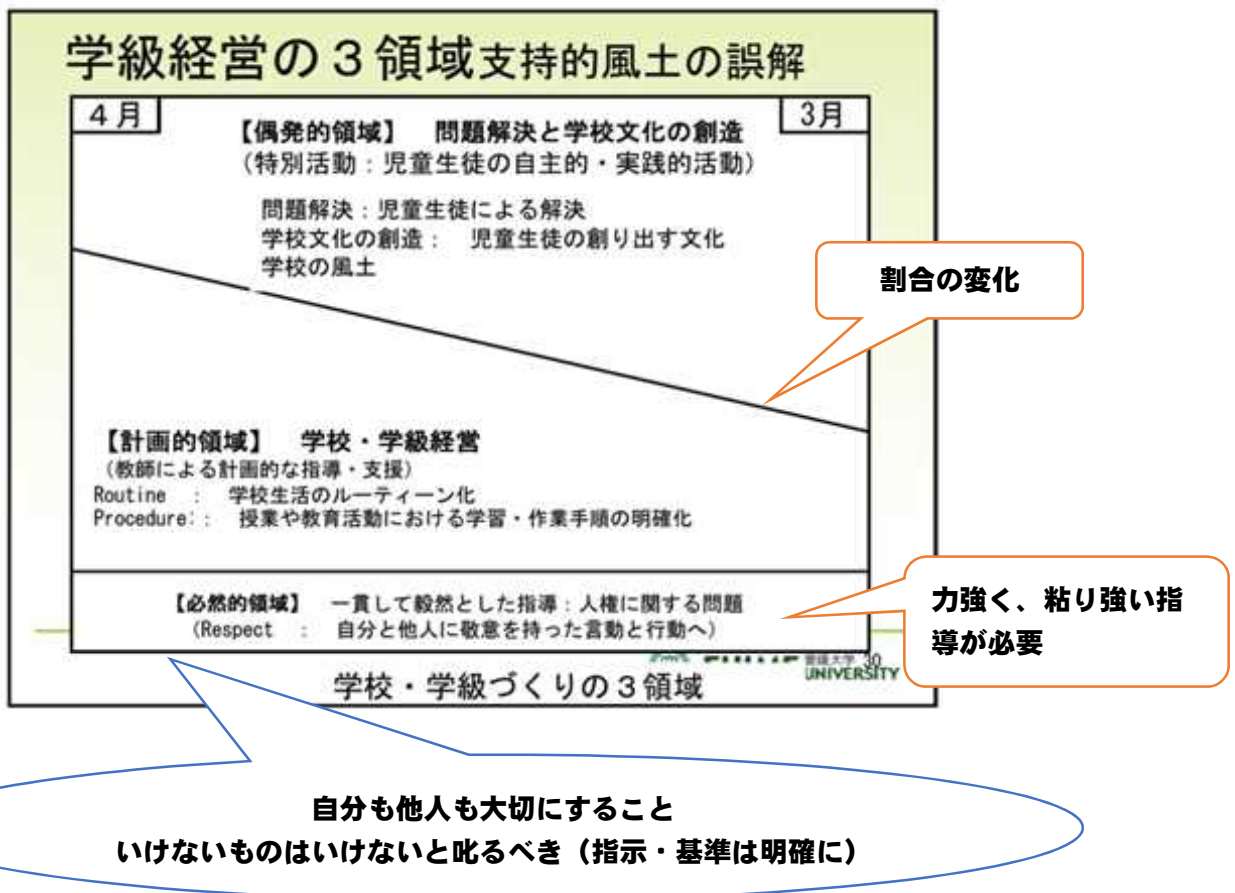
すなわち…

学級活動の充実を通して、学級経営の充実を図る。

この考えなくして、主体的・対話的で深い学びの基盤やいじめの未然防止はできない。

8 学級活動を生かした学級経営の充実 ～学級経営の3領域～

- (1) 学級活動における自発的、自治的活動
→ 児童・生徒の力を借りられるメリット
「楽」が学校に広がる → 学校生活の豊かさと楽しさは児童・生徒が創る。
- (2) 「自発的・自治的活動」「自主的・実践的態度」
→ 「自治」と「自律」 → 生徒指導問題が減りやすくなる。
- (3) 学習や生活の基盤となる



9 本気で向き合う指導


自分と他者の「心と体」を傷つける言動・行為は明確に指導する。

【ポイント】

- (1) 指導は言動と行為に。人格は否定しない。
- (2) はっきり、はっきり、すっきり
・「思い出し怒り」(過去のこと) はしない。
- (3) 「分かる？」と聞かない(「分かりなさい」と言えば良い。)
- (4) 褒めるときは「過去」に言及する。
 - ① 点(そのケースのみ)で褒めても効果は薄い。
 - ② プロセス(見ていたよ)で褒める。
 - ③ ねぎらう。
 - ④ 間接的に褒めると更に嬉しい。

社会的安全性と心理的安全性

人権に関する危険性の除去



お互いを個として尊重する言動・行動を醸成





一人ひとりが学級で安心して活動できるか？

支持的風土は、先生の毅然とした指導を基盤とする

守ってもらえる { 優しい先生
毅然とした態度で指導する先生

10 指導のバウンダリーワーク 目標設計の視点

指導のバウンダリーワーク 目標設計の視点 学級活動(2)

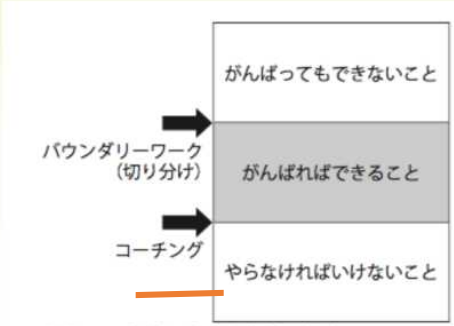



図 6-2 自律に向かう指導の視点

「やらなければいけないこと」

= 自己と他者の人権を侵害する行為は絶対に許さない

「はっきり、あっさり、ばっさり」指導する



- 11 「問題」を「取り組む課題」へ
 <コーチングの例> 朝早く起きる
- ① 起きられない子の目標を「つかむ」
 → この場合、意識するだけでできるか？
 - ② 朝起きられない原因を「探る」
 Q どういうときに起きられないの？
 → 寝る時間が遅い、寝る前にゲームしているから 等
 Q どこを改善したら、早く起きられるだろうね？
 → 自分で考える仮説 = 取り組むべき課題から目標化

12 学級経営と生徒指導の関連化の重要性

- (1) 学級集団の在り方といじめの関連
- (2) いじめ被害の影響に関する研究
【興味深い結果】

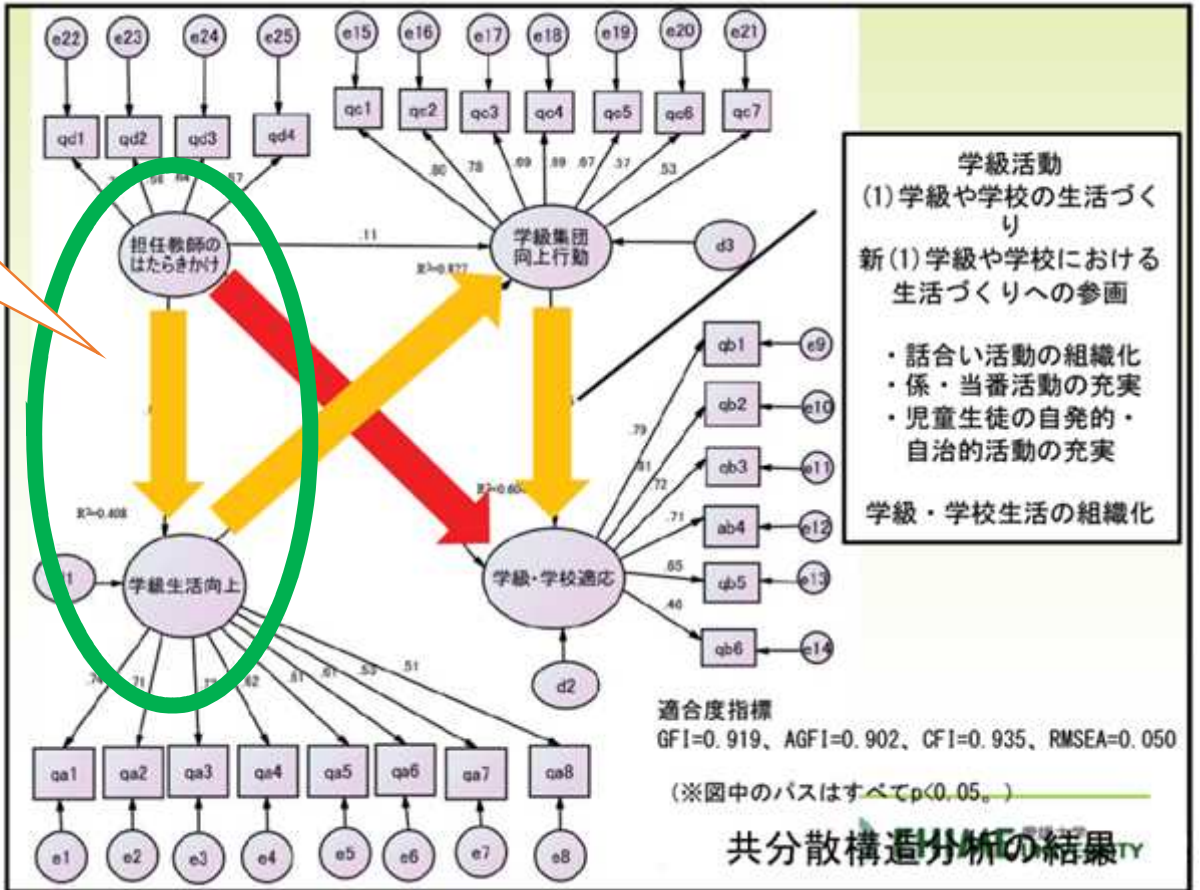
※久保田 真功 (2003)

「いじめ体験が小学生の心身に及ぼす影響

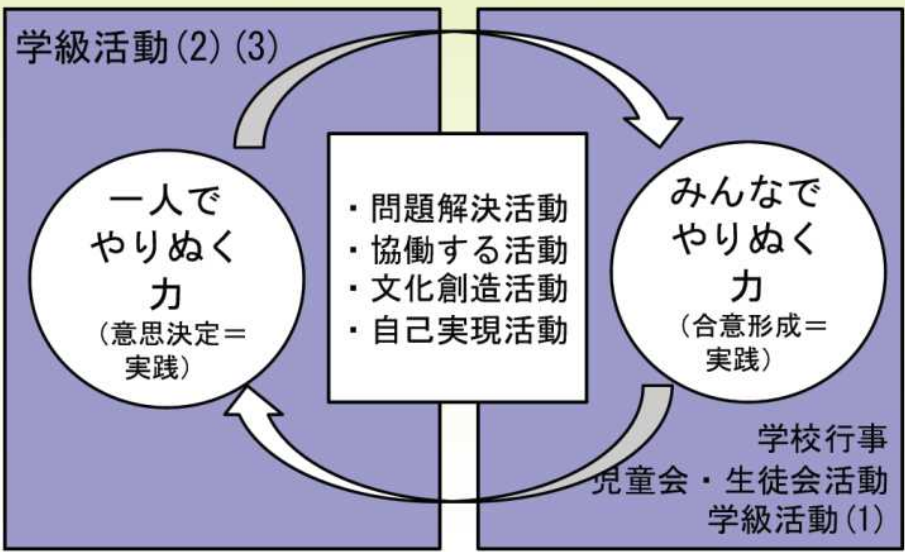
—学級集団認知に着目して— 『生徒指導学研究』 第2号

現在の学級集団への適応、とりわけ対人関係面での適応が良好であると、過去のいじめ被害体験を前向きに捉える割合が高くなる。 ※【久保田 (2003)】

ここに一番力を入れる



GRIT (やり抜く力) の新たなアプローチ



Duckworth Angela (2016), *Grit: The Power of Passion and Perseverance*, Scribner

